

田端長官 アウトバウンド振興は重要施策のひとつ

菊間副会長 2019年に「海外旅行2000万人」達成を

今年10月までの出国日本人数は約1565万に達しており、過去最高だった2012年を上回る見通しとなっています。アウトバウンド2000万人とインバウンド4000万人の「6000万人大交流時代」に向けて、2019年に、出国日本人数2000万人が実現される可能性も高まってきました。観光庁の田端浩長官と

「海外体験」の意義を業界と連携してアピール

——日本人による海外旅行の意義をどのようにお考えになりますか。

田端 今年7月31日、観光庁長官に着任しましたけれども、振り返ってみますと、旅行振興課長として観光行政に携わっていた2002年当時、また、国土交通省総合政策局観光部という部署であり、3課体制の組織でした。その中で、訪日外国人旅行者数を1000万人にするというビジョンを打ち出した。スタートさせ、その後、観光への期待

の高まりとともに、観光立国推進基本法が制定され、観光立国の実現に向けた旗振り役となる国の組織として、2008年に観光庁が発足し、今年で満10年を迎えています。

としても、海外旅行を含む「海外体験」の意義について、旅行業界などと連携してアピールしていく必要があると考えています。

菊間 国内旅行も海外旅行も、旅行に出かける人はそれぞれに様々な目的があり、その意味合いも十色ということだと思いますけれども、最終的には、旅行を通じて色々なことを学んだり、知識を得たりして帰ってくるわけです。日本では1964年に渡航自由化が実現され、アジアの中では他の国々に比べると10年以上も早く自由に海外旅行に出かけられるようになりました。

行に出かける意欲や外国で学んだり、知識を得たりすることへの希求度も非常に高いようです。そういう現状を見ると、将来、日本は島国として遅れをとっていくことにならないのではないかと心配せざるを得ません。日本の若い人たちはもともと外国に飛び出すべきでしょうし、年齢に関わらず幅広い世代の人たちに海外旅行へ積極的に出かけてほしいと思います。

アウトバウンド振興に「取り組む参事官を任命

——日本人海外旅行者数と訪日外国人旅行者数のアンバランスは正については、どのようにお考えですか。

田端 2018年のアウトバウンドは、国内経済の堅実な成長や主なデスティネーション先の政治不安の減少なども背景に、順調な推移を示してきました。このペースを維持した場合、過去最高を記録した2012年の1849万人を上回ることも想定されます。しかし、依然としてインバウンドとは均衡がとれない状態が続いています。観光庁としては、日本と世界各国との双方

日本人がいち早く自ら世界の事情を見聞できるようにしたことは、日本の高度な発展がもたらされるうえで、極めて大きな意味を持つていたのではないかと考えています。

向の交流、いわゆるツーウェイリズムの拡大は重要と考えており、アウトバウンドへの取り組みの強化を加速していくことが必要だろうと



菊間副会長 「相互主義で日本人ビザ緩和を」

菊間潤吾JATA副会長 トバウンド振興を

渡航自由化から半世紀以上の歳月が流れ、21世紀に入ってから20年近くが経過しようとしている今、逆転現象とも言える事態が生じて、近隣のアジア各国の皆さんが積極的に国外に出かけ、日本にも多くの旅行者が訪れるようになりました。海外旅

行に出かける意欲や外国で学んだり、知識を得たりすることへの希求度も非常に高いようです。そういう現状を見ると、将来、日本は島国として遅れをとっていくことにならないのではないかと心配せざるを得ません。日本の若い人たちはもともと外国に飛び出すべきでしょうし、年齢に関わらず幅広い世代の人たちに海外旅行へ積極的に出かけてほしいと思います。

田端浩観光庁長官&菊間潤吾JATA副会長



田端長官「若者のアウトバウンド活性化へ」

特別対談

田端浩観光庁長官& 官民連携してアウ

思っています。そのため、長官に着任したその日に、アウトバウンド振興に専門的に取り組む旅行振興担当参事官を任命しました。

菊間 現在は「観光立国」から「観光先進国」を目指している状況ですが、双方向交流が実現され

てこそ「観光先進国」ではないかと考えています。世界中の国々がインバウンド振興のために様々な施策を講じて「わが国に来てください」と繰り返しアピールしている中で、アウトバウンドの振興にも力を入れることは、まさしく「観光先進国」であることの証左となるのではないのでしょうか。わずか数年の間に千万人単位で外国人旅行者数が増加している日本のインバウンドは、世界ではすでに神話のように語られるま

で、双方向交流の拡充を打ち出して、ツーウェイツーリズムを促進する姿勢は「観光先進国」ならではないもので、日本という国の将来や国益とといった観点からも非常に大切なことだろうと理解しています。

国民的ムーブメント醸成へ横断的な組織設置

——アウトバウンドの振興に向けた観光庁の施策について、具体的な取り組みをお聞かせください。

田端 アウトバウンド振興の関連施策については、「観光立国推進基本計画」で、日本人による海外旅行の促進が諸外国との双方向交流を通じたインバウンドの拡大にも貢献し得るといふ考え方が示されており、「明日の日本を支える観光ビジョン」においても、若者のアウトバウ

ド活性化の推進が盛り込まれ、取り組みを進めているところで。観光庁では、他の世代に比べて出国者数が大幅に減少している若者に着目し、民間有識者、関係省庁などによる

「若者のアウトバウンド活性化に関する検討会」を設置して、従来のレジャー目的での海外旅行に対し、現

地での異文化体験、社会活動などの自己研鑽の要素が強い「海外体験」の重要性に着目して議論を重ね、今年7月にとりまとめを行いました。このとりまとめを踏まえて、若者による「海外体験」を広げていくための国民的ムーブメントを醸成するための、観光庁、旅行業界の呼びかけによる関係府省、経済界、教育界と一体となった横断的な組織の設置に向けて準備しているところです。

「若者のアウトバウンド活性化に関する検討会」を設置して、従来のレジャー目的での海外旅行に対し、現地での異文化体験、社会活動などの自己研鑽の要素が強い「海外体験」の重要性に着目して議論を重ね、今年7月にとりまとめを行いました。このとりまとめを踏まえて、若者による「海外体験」を広げていくための国民的ムーブメントを醸成するための、観光庁、旅行業界の呼びかけによる関係府省、経済界、教育界と一体となった横断的な組織の設置に向けて準備しているところです。

2000万人達成が目前に迫る中で、2019年における「海外旅行の本格復活」に向けて、期待や抱負をお聞かせください。

田端 「観光立国推進基本計画」では、日本人海外旅行者数を2020年までに2000万人とする目標を掲げ、官民体となって取り組んでいますが、「観光先進国」の実現に向けて、さらなる高みを目指していきたいと考えています。引き続き、JATA会員をはじめ旅行業界の皆さんにご支援とご協力をいただきますようお願いいたします。

菊間 少し厳しい見方になりますが、東京オリンピックパラリンピックが開催される2020年は、海外旅行のボリュームゾーンである7月と8月が大会期間と重なるため、2019年比べてマイナスイメージとなる可能性も否定できません。ですから、旅行業界の宿願とも言えます。日本人海外旅行者の2000万人達成は、是が非でも2019年に実現できるようJATAアウトバウンド促進協議会を中心に、業界を挙げて全力で取り組んでいきたいと考えていますので、観光庁をはじめ関係省庁の皆様には是非ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

「観光先進国」実現に向け、さらなる高みへ

——日本人海外旅行者数の